

持続可能なニホンナシ花粉の自家採取および受粉方法の導入支援

農業技術センター横浜川崎地区事務所 実施期間：令和5～8年度

課題・目的

■横浜川崎地域でニホンナシの生産者の約7割が、人工授粉用の花粉を輸入に依存している。しかし、輸出国で発生した病害により輸入禁止になり、早急に自家採取花粉の確保が必要となった。また、人工授粉に必要な花粉採取の労力軽減できる虫媒受粉の導入も望まれている。

■「浜なし」、「多摩川梨」産地を維持するため、各生産者に適した持続可能な花粉採取及び受粉方法の導入を支援する。

活動内容

■＜令和5年度＞花粉採取樹を確保していない生産者に採花できるよう枝を残す剪定方法について指導した(10回144名)。

花粉採取方法を習得していない生産者を対象に、実演を交えながら、採取した花から花粉を精製する方法について、講習会を開催した(3回85名)。

花粉採取樹の早期確保を目指し、接ぎ木方法を指導した(1回40名)。

虫媒受粉の導入に向け、必要な資材の説明やハチの放飼時期や方法などについて、事前に周知した。また、放飼1か月前には新規導入者に放飼の指導を行った(1回3名)。

■＜令和6年度＞JAが実施した花粉採取に必要な労働力や花蕾採取機の導入による労働時間の削減効果、品種ごとの発芽率の調査など、花粉確保に向けた実証実験に協力した。

虫媒受粉を導入した生産者に対して、効果確認や技術指導のため、受粉用クロマルハナバチのメーカーと連携し巡回指導を実施した(11名)。



花粉採取講習会

今後の展開

■受粉樹を導入していない生産者に対して、引き続き、講習会や個別巡回で剪定方法や接ぎ木、高接ぎなどの技術指導を実施する。

■花粉採取方法を習得していない生産者に対して、引き続き、個別巡回で技術指導を実施する。

■多目的防災網設置園や複数品種混植園などを持つ生産者に対して虫媒受粉の導入を働きかける。